

豚の中皮腫の1症例について

力身覚¹, 池隆雄¹, 藤井三郎¹

A case of mesothelioma in swine

Satoru RIKIMI, Takao IKE, Saburo FUJII

Key words : 豚 swine, 腫瘍 tumor, 中皮腫 mesothelioma, 胸腔 thorax

I はじめに

中皮腫は胸膜や腹膜の漿膜面を被う中皮, および中皮直下の結合組織の未分化間葉細胞に由来する腫瘍で, 家畜における発生は極めて希である。

今年度, 京都市と畜場において正常畜として搬入された豚に, 中皮腫罹患の一例が見られたので, その病理学的検査結果の概要を報告する。

II 材料及び方法

平成14年2月8日に正常畜として搬入された並豚で, 臨床所見に特に異常は認められず, 栄養状態も良好であった。

病理学的検査は肉眼検査を実施した後, 腫瘍の発生が認められた病変部を10%ホルマリンで固定し, 常法に従いパラフィン切片を作製し, HE染色およびアルシアン青染色を施した標本について組織検査を行った。

III 結果

1. 肉眼検査結果

腫瘍病変は胸腔内上皮及び胸腔臓器の漿膜面に局限して認められる(図1)。

腫瘍は播種状に連続して認められ, 肺臓の肺胸膜面では顆粒状からカリフラワー状を呈した腫瘍が融合している。

特に縦隔部では増殖が著しく, 内部に肺門リンパ節や大動脈弓を包含して, 厚さ2cm程度に肥厚している。

心臓では漿膜性心膜の壁側板における増殖が著しく, 厚さ1cm程度に肥厚している。しかし, 漿膜性心膜の臓側板(心外膜)及び心臓実質には著変は認められない。

胸腔内面を被う肋骨胸膜上皮の表面にも顆粒状から台状に連続して腫瘍の増殖が認められる。特に右側の胸膜で著しく, 左側では脊椎側や心臓に接する心膜胸膜部の部位で認められる(図2)。

横隔膜では, 胸腔面を被う横隔膜胸膜において腫瘍の播

種状及び顆粒状の連続増殖が認められる。

腹腔内及び腹腔内臓器には腫瘍の増殖や転移などは認められない。

2. 組織検査結果

腫瘍の著しい増殖が認められた縦隔部及び漿膜性心膜の壁側板では, 立方状もしくは円柱状で細胞質に富み, 明瞭な核を有する腫瘍細胞がシート状に増殖している(図3)。異型性や分裂像はあまり認められない。実質臓器への浸潤は部位によって島状に認められる程度である。

腫瘍組織の表層では, 反応性の中皮に類似した腫瘍細胞が漿膜面にびまん性に広がり, 複雑に分枝する基質の結合組織を芯に, 腫瘍細胞が被覆し, 部位により特有の乳頭状発育や管腔を囲んだ様な構造を呈している(図4)。

IV まとめ

豚の胸腔内漿膜面に播種状増殖を示す腫瘍の例に遭遇, 病理学的検査を実施し, 上記各所見からこれを中皮腫と診断した。

¹ 京都市衛生公害研究所 病理部門

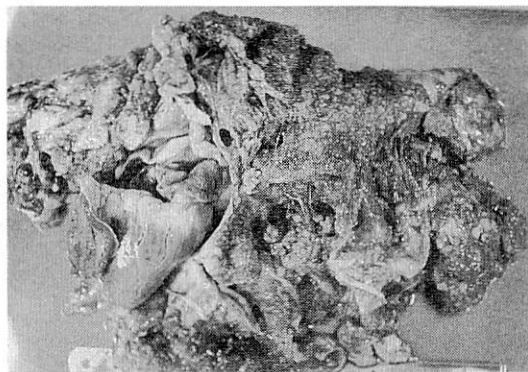


図1 腫瘍は肺胸膜面及び心臓壁側面に播種状に連続して増殖している

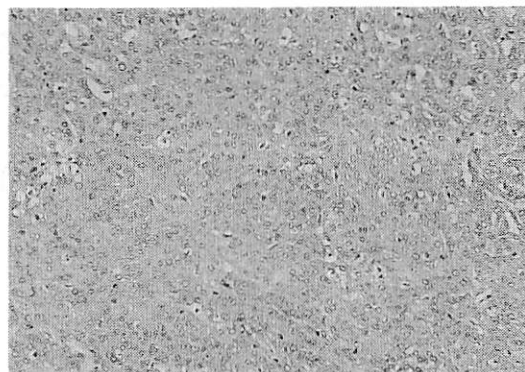


図3 立方状～円柱状の細胞膜に富む腫瘍細胞の増殖

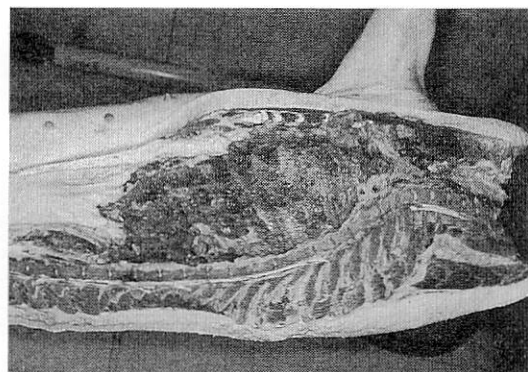


図2 肋骨胸膜上皮の表面に顆粒状から台状に増殖する腫瘍を認める

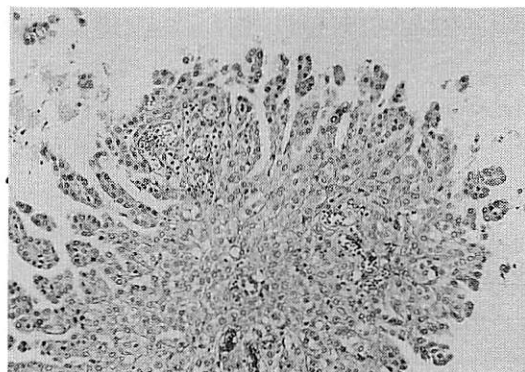


図4 中皮に類似した腫瘍細胞が特有の乳頭状発育を呈している